話すこと　3　一人で話すことができない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

話すことに自信が持てない場合

①友達と一緒に発話する場面を設ける。 全

新出の語句や表現を導入する際，口慣らしや慣れ親しむ段階では，学級全員で声に出したり，グループの友達と一緒に声に出したりする場面を設け，発話への抵抗感を軽減しながら発話を繰り返し，自信を持たせる。ゲームにおいても，すぐに児童同士で対話させずに，教員やＡＬＴ，代表の児童など，一人に対して学級全員で尋ねる場面を設けるなど，段階的に活動を展開する。

②ペアやグループの組み方を工夫する。 全・個

友達と話したり，聞いたりする言語活動に安心感を持って取り組ませるため，「まずは隣の人と話してみよう」というように最初に対話する相手を指定したり，話しやすい友達とペアやグループが組めるように言葉掛けをしたりすることなどが考えられる。友達と話したり，聞いたりすることに慣れてきたら，「グループの人と話す」「〇人の人と話す」「男子〇人，女子〇人と話す」というように条件を付け，いろいろな友達と話す場を設ける。

③スモールステップで活動を組み立てる。 全・個

最初から児童同士で対話させることは避け，教員とＡＬＴの対話を聞かせた後，教員と児童，ＡＬＴと児童が対話する，次に児童同士がペアで対話する，グループ内で対話する，全体の前で話すというように段階を踏んで活動を組み立てる。聞いたり，少人数で対話したりする活動を十分に行い，少しずつ人前で話すことに慣れさせるようにする。

④教員とやり取りする場を設け，称賛する。 個

教員と児童が対話する中で，できたことや頑張ったことを認め，称賛することで達成感や自己肯定感を持てるようにする。児童が誤りのある英語を話しても，訂正して言い直させるのではなく，自然な対話を続けながら正しい英語で応答し，正しい言い方を意識させるようにする。

【例】教員：How was your summer vacation?
児童：It was fun.
教員：Oh, nice! 楽しかったんだね。良かったね！Where did you go?
児童：I go to the mountain.
教員：Oh, mountain. You went to the mountain. 山に行ってきたんだね。

⑤「間違えても大丈夫」という雰囲気をつくっておく。 全

児童が安心して話すためには，学級の仲間づくりが基盤となるが，教員の姿勢も大切である。教員自身が児童の学習モデルとなることを意識し，「外国語の学習では，間違えてもいいから英語を使おうとすることが大切だ」という雰囲気をつくって，積極的に英語を使って話す姿を見せるようにする。